

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3191282号
(U3191282)

(45) 発行日 平成26年6月19日 (2014. 6. 19)

(24) 登録日 平成26年5月28日 (2014. 5. 28)

(51) Int.Cl.

F 1

G 1 O D 9/00 (2006. 01)

G 1 O D 9/02 (2006. 01)

G 1 O D 7/02 (2006. 01)

G 1 O D 9/00 F

G 1 O D 9/02 A

G 1 O D 7/02 Z

評価書の請求 未請求 請求項の数 2 書面 (全 7 頁)

(21) 出願番号 実願2013-7507 (U2013-7507)

(22) 出願日 平成25年12月26日 (2013. 12. 26)

(73) 実用新案権者 514018272
小野 茂
東京都葛飾区東金町3丁目33番地16号

(72) 考案者 小野 茂
東京都葛飾区東金町3丁目33番地16号

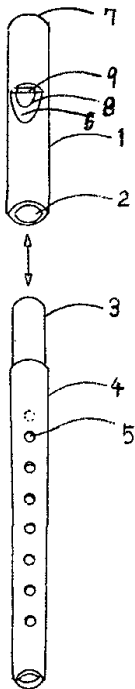
(54) 【考案の名称】 縦式篠笛に着脱自在に設けた歌口具

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】縦式篠笛に着脱調整自在に嵌合装着した、旧来の尺八式既存歌口具と差替えて、誰にでも簡単に鳴らせるように音源構造を改めた、くわえ式、歌口具を提供する。

【解決手段】歌口具1の下部管内にホゾ穴2を形成し、手孔5を設けた縦式篠笛の主体4に設けたホゾ3に嵌め合わせ組み立てる。ホゾ組み部分の構成が全て統一規格であるから、調子(長さ)の違う篠笛12律各管に対しても、歌口具を差し換えて使用が可能な画期的構成であり、部品交換的な便利さが顕著である。更に、ホゾ組みの融通性もある。差し込み位置の上下加減が音階調整に連動する特長があり、極めて有利な効果を奏するものである。なお、製管面でも従来の慣習を脱して容易になり、竹管邦楽器界に対しては、大なる寄与となるものである。

【選択図】図1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

手孔（５）を設けた縦式篠竹管（４）の上部先端にホゾ（３）を設け、一方、縦式歌口具の下端部分にホゾ穴（２）を形成し、着脱調整自在に挿着したことを特徴とした縦式歌口具。

【請求項 2】

本考案の歌口具（１）は、先端開口部に、くわえ式、吹き口（７）を設け、更に、中央外周一側に切欠いた傾斜面（６）を形成し、くわえ式、吹き口（７）より管内下方向へ息流直通口（９）を有する塞栓を挿入し、かつ、傾斜面（６）の尖端（８）に息流が当たり、渦動を起し発音する位置に、塞栓を固定したことを特徴とする歌口具である。

10

【考案の詳細な説明】

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本考案は、近年、西洋管楽器が市中を占め、竹管邦楽器が敬遠されている傾向にある現実を実感するものであり、旧来の竹管邦楽器の普及を目指し、改良した縦式篠笛の歌口具を提供する。

【０００２】

尚、既成歌口具は、旧来の尺八形式であり、初心者には吹奏法が難しい構成である。

20

例えば、音源を直接唇で操作、顎当たりの角度、呼吸法など難しい要件が沢山あり、仮に、初心者が練習を始めたとして、一応の演奏ができるまでは、かなりの歳月と努力修練が必要とするものである。

【背景技術】

【０００３】

近年、邦楽器が中学校の教科課程に制定されてからも、生徒に教えられる教師がいらないという嘆かわしい現実もある、一方、祭り囃子に欠かせない、快い篠笛の響きも、近年では後継者不足で、拡声器による電氣化が通常化している。

【０００４】

本考案は、いたずらに古来の尺八式既成歌口具を無視するものでなく、その特長利点を活用して未来へ永く継承する。一方、それを代用する、初心者にも吹き易く、音も安定して鳴り、かつ、簡単な手ほどきで、誰でも容易に鳴らせる、くわえ式、歌口具を目指すものである。

30

【０００５】

上記の通り、旧来の尺八式歌口具の演奏が難しいことは一般の知るところであるが、一方、演奏技術を習得した名手には、伝統竹管邦楽器の素晴らしい妙音演奏が出来ることも特筆すべきである。

【先行技術文献】

【考案文献】

40

【０００６】

【考案文献 1】

実用新案登録第 2 1 4 4 2 7 6 号公報

【考案文献 2】

意匠登録第 9 4 2 9 5 3 号公報

【考案文献 3】

意匠登録第 1 0 0 7 7 3 1 号公報

【考案文献 4】

意匠登録第 1 0 2 0 3 3 6 号公報

【考案の概要】

50

【考案が解決しようとする課題】

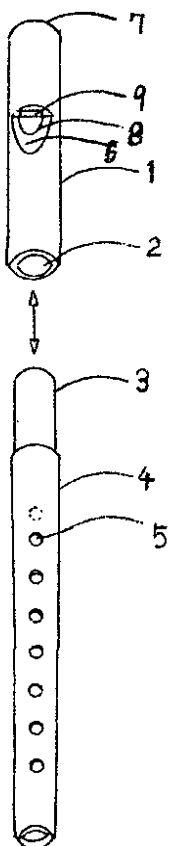
【0007】

本考案は、くわえ式、歌口具に改め、少ない息量の吹き込みにも、安定した音色が奏でられる構成で調律しているため、高齢者や初心者、或いは小中学生にも簡単な手ほどきで容易に演奏が可能である。

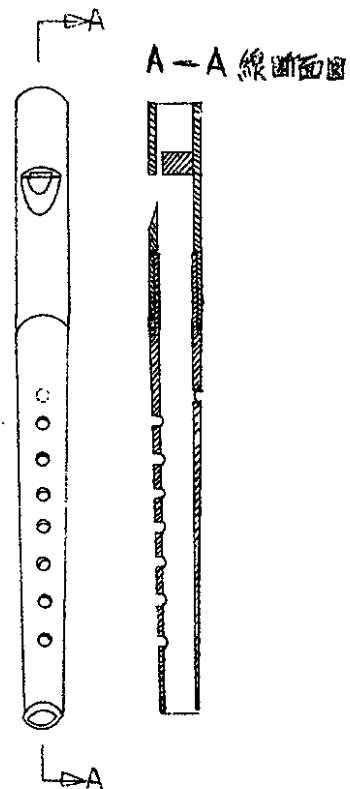
【0008】

本考案は、上記のように構成されているから、初歩的簡単な手ほどきで

【図1】



【図2】



【手続補正書】

【提出日】平成26年3月24日(2014.3.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】実用新案登録請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

手孔(5)を設けた縦式篠竹管(4)の上部先端にホゾ(3)を設け、一方、縦式歌口具の下端部分にホゾ穴(2)を形成し、着脱調整自在に挿着したことを特徴とする縦式歌口具。

【請求項 2】

請求項 1 に記載された歌口具であって、先端開口部に、くわえ式吹き口(7)を設け、更に、中央外周一側に切欠いた傾斜面(6)を形成し、くわえ式吹き口(7)より管内下方へ息流直通口(9)を有する塞栓を挿入し、かつ、傾斜面(6)の尖端(8)に息流が当たり、渦動を起し発音する位置に、塞栓を固定したことを特徴とする歌口具。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【考案の詳細な説明】

【考案の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本考案は、近年、西洋管楽器が市中を占め、竹管邦楽器が敬遠されている傾向にある現実を実感するものであり、旧来の竹管邦楽器の普及を目指し、改良した縦式篠笛の歌口具を提供する。

【0002】

既成歌口具は、旧来の尺八形式であり、初心者には吹奏法が難しい構成である。例えば、音源を直接唇で操作、顎当たりの角度、呼吸法など難しい要件が沢山あり、仮に、初心者が練習を始めたとして、一応の演奏ができるまでは、かなりの歳月と努力習練が必要とするものである。

【背景技術】

【0003】

近年、邦楽器が中学校の教科課程に制定されてからも、生徒に教えられる教師がいらないという嘆かわしい現実でもある一方、祭り囃子に欠かせない、快い篠笛の響きも、近年では後継者不足で、拡声器による電氣化が通常化している。

【0004】

本考案は、いたずらに古来の尺八式既成歌口具を無視するものでなく、その特長利点を活用して未来へ永く継承する。一方、それを代用する初心者にも吹き易く、音も安定して鳴り、かつ、簡単な手ほどきで、誰でも容易に鳴らせる、くわえ式歌口具を目指すものである。

【0005】

上記の通り、旧来の尺八式歌口具の演奏が難しいことは一般の知るところであるが、一方、演奏技術を習得した名手には、伝統竹管邦楽器の素晴らしい妙音演奏が出来ることも特筆すべきである。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0006】

【特許文献1】 実用新案登録第2144276号公報

【特許文献2】 意匠登録第942953号公報

【特許文献3】 意匠登録第1007731号公報

【特許文献4】 意匠登録第1020336号公報

【考案の概要】

【考案が解決しようとする課題】

【0007】

本考案の課題は、くわえ式歌口具に改め、少ない息量の吹き込みにも、安定した音色が奏でられる構成で調律し、高齢者や初心者、或いは小中学生にも簡単な手ほどきで容易に演奏が可能な歌口具を提供することにある。

【0008】

即ち、本考案の課題は、初歩的簡単な手ほどきで指使いの練習から始めても、間もなく覚えらるる歌口具を提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0009】

上記の目的を達成する手段としては、手孔(5)を設けた縦式篠笛(4)と、その上部先端にホゾ(3)を設け、一方、歌口具(1)の下端開口部の管内にホゾ穴(2)を着脱調整自在の嵌合い口に形成し、さらに歌口具(1)は上端開口部に、くわえ式、吹き口(7)を設け、かつ、中央外周一側に切欠いた傾斜面(6)を形成し、くわえ式、吹き口(7)より、管内下端方向へ息流直通口(9)を有する塞栓を挿入し、傾斜面(6)の尖端(8)に息流が当たり、渦動を起し発音する位置に塞栓を固定したことを特徴とする歌口具を要旨とするものである。

【考案の効果】

【0010】

本考案は、上記の通り構成され、次に記載されている効果を奏する。即ち、いわゆる、ホゾ組みの融通性にもある。差し込み位置の上下加減が音階調律に連動する特徴があり、極めて有利な効果を奏するものである。

【0011】

本考案は、歌口具の組み立て部分の構成が統一規格であるから、調子(長さ)の違う篠笛の各管12律に対して、差替え対応が可能な画期的構成であり、部品交換的な便利さが顕著である。

【0012】

本考案は、上記述通り吹き口から吹き込んだ息流が、直通口(9)から傾斜面(6)の尖端(8)に当たり渦動を起し、管内空気流に振動し音が発生するものであり、篠竹管(共鳴体)の規定構成が同一であれば、音質、音響、音階も全て共通である。竹管楽器における発音論理は公知の通りである。

【図面の簡単な説明】

【0013】

【図1】本考案の分解斜視図である。

【図2】図1の組み立て斜視図である。

【図3】図2のA-A線断面図である。

【考案を実施するための形態】

【0014】

本考案を実施するための形態を説明する。図1に示すように、歌口具(1)の中央外周一側に切欠いた傾斜面(6)を形成し、上端の息吹き口(7)より管内下端方向へ、息流直通口(6)を有する塞栓を挿入し、傾斜面(6)の尖端(8)に息流が当たり、発音する位置に調整固定し、かつ、歌口具(1)の下部に形成したホゾ穴(2)と、手孔(5)を設けた篠竹管(4)の上記に設けたホゾ(3)を着脱調整自在に嵌着する。

【産業上の利用可能性】

【0015】

以上述べたように、本考案は、邦楽器篠笛に係り、詳しくは縦式篠笛において、着脱調整自在の構成のくわえ式歌口具を提供するものである。材料は篠竹に限るものでなく、竹材、木材、プラスチック、合成樹脂材、金属、陶器、ガラス、など歌口具材質として施工できるものであれば特に限定されない。

【符号の説明】

【0016】

- | | |
|---|---------|
| 1 | 歌口具の主管 |
| 2 | ホソ穴 |
| 3 | ホソ |
| 4 | 篠笛の主体 |
| 5 | 手孔 |
| 6 | 傾斜面 |
| 7 | 歌口具の息吹口 |
| 8 | 傾斜面の尖端 |
| 9 | 息流直通口 |

【手続補正4】

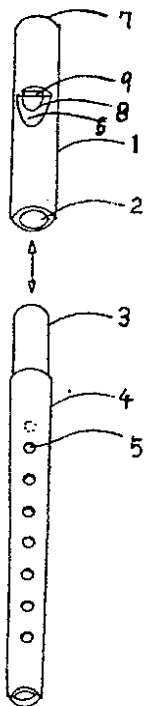
【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】全図

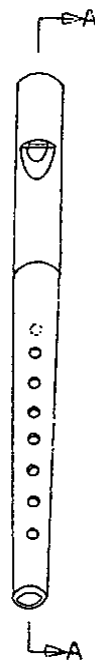
【補正方法】変更

【補正の内容】

【図1】



【図2】



【図 3】

A—A 線断面図

